Progressing Change and Growth

私たちは2023年4月、まだ見ぬ頂への道しるべとしてパーパスを制定し、変革を続けています。
2025年4月には新経営体制を発足、そして、
基幹事業3セグメントから2セグメント体制に変更しました。
新たな体制のもと「Change & Growth」をさらに推進し、次なる飛躍を実現していきます。

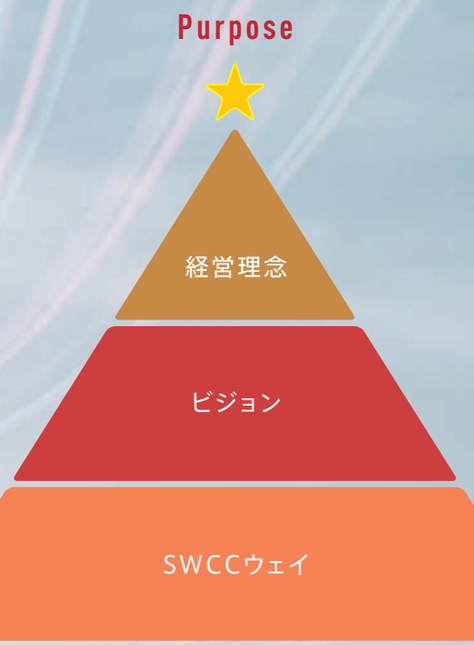
SWCCパーパス

時代は、変化でできている。
私たちが、変化をしないわけにはいかない。
インフラだけじゃない。電線だけでもない。
つないでいるのは、昨日や、今日や、明日のこと。
この先も、人が和やかに生きるために。
いつかの、愛すべきあたりまえのために。
人を想う品質と信頼で、応えていく。
だから、情熱と輝きをたやさない。挑戦をやめない。

いま、あたらしいことを。
いつか、あたりまえになることへ。

Management Philosophy

SWCCグループの理念体系
SWCCグループは、信頼の輪をひろげます



経営理念 ····· SWCCグループは、信頼の輪をひろげます
ビジョン ····· SWCCはソリューション提案型メーカーへ!

SWCCウェイ(行動基準)

「迅速」・「情熱」・「考動」で価値創造を実現する

【迅速】
- 大切な経営資源である「時間」を常に意識し、スピード重視で行動します
- 報告・連絡・相談は速やかに行います
- 問題発生時には、速やかに解決にあたり、真因の分析と再発防止に努めます

【情熱】
- 失敗を恐れず、絶えず変革にチャレンジします
- 時代に合わない慣習は自ら断ち切る勇気を持って行動します
- お客さまからの信頼を大切に、誠実で心のこもった対応をいたします

【考動】
- 前例にとらわれず、また指示を待つことなく、自ら考え、積極的に行動します
- コンプライアンスを常に意識し、お客さまや家族に胸を張って話せる仕事や行動に徹します
- 思いやりの気持ちを忘れずに、一人ひとりが働きがいのある執務環境をつくります

新たな価値創造に向けたトランスフォーメーション

事業戦略

利益拡大に向けて、事業最適化と資本効率の向上を戦略的に
推進し、収益力の強化を図ります。

→ 詳しくは 21～24ページ

コーポレート戦略・財務戦略

新体制のもと、戦略的な資源配分とROIC経営の高度化により、
企業価値の最大化を図ります。

→ 詳しくは 27～28ページ

人的資本戦略

変革・挑戦・成長を軸に、組織風土改革と人材育成を推進し、
個と組織の持続的成長を実現します。

→ 詳しくは 29～30ページ

技術・研究開発戦略

技術開発体制を強化し、データ駆動型開発・人材育成・事業連携を
通じて、ソリューション提案型の価値創造メーカーを目指します。

→ 詳しくは 31～32ページ

編集方針

本統合報告書では、SWCCグループが中期経営計画の実行を通じて改革を推進し、2030年に向けて具体的なアクションを展開するとともに、将来に向けた基盤強化にも取り組む姿勢をお伝えします。読者の皆さまにより深い理解を得ていただけるよう、トップからのメッセージ、経営資源の強化、中期経営計画の詳細、マテリアリティの進捗状況、主力事業セグメントの現状、サステナビリティに関する情報の充実にも注力しています。

■統合報告書の対象期間

2024年4月1日～2025年3月31日（2024年度）
※ただし、一部には過去および直近の活動が含まれます。

■統合報告書の対象範囲

SWCC株式会社、連結子会社（国内11社、海外10社）および持分法適用会社（海外4社）

■参考にしたガイドライン

- IIRC（国際統合報告評議会）「国際統合報告フレームワーク」
- GRI（Global Reporting Initiative）「サステナビリティ・レポーティング・スタンダード」
- （一財）日本規格協会「JIS Z 26000：2012社会的責任に関する手引」

■発行年月

2025年9月（次回発行予定：2026年9月）

■その他

会社案内、有価証券報告書などの企業情報は、ウェブサイトでご覧いただけます。

「SWCCグループレポート統合報告書2025」発刊にあたり

本報告書は、株主・投資家の皆さまをはじめ、従業員、お取引先、地域社会など、全てのステークホルダーの皆さまに向けて、SWCCグループの価値創造の歩みと未来への挑戦をお伝えするものです。私たちは、パーパス「いま、あたらしいことを。いつか、あたりまえになることへ。」のもと、変化を恐れず、成長への挑戦を力強く推し進めています。

本年度は、新しい経営体制のもと、さらなる成長に向けた事業戦略をお伝えするとともに、一人一人が自身の存在意義を見つめなおす「マイパーパス」を掲載しています。企業の存在意義と個人の思いが響き合い、組織全体が一体となりSWCCの挑戦がより力強く持続可能なものとなることを願っています。

今後も皆さまとの積極的な対話を通じて、企業価値の持続的な向上に取り組んでまいります。

2025年9月

SWCC株式会社
サステナビリティ推進部長　犬木 里枝

目 次

イントロダクション
SWCCパーパス、理念体系 ……1
編集方針・目次……4
価値創造とイノベーションの歴史 ……5
事業活動と価値創造の源泉……7
SWCCグループの価値創造ストーリー ……9

トップメッセージ
CEOメッセージ……11
会長メッセージ ……15

価値創造ストーリーの実践
SWCCグループの価値創造プロセス ……17
経営資本の充実に向けて ……19
戦略アップデート
- 事業戦略 ……21
- TOTOKU株式の共同取得について……25
- コーポレート戦略・財務戦略 ……27
- 人的資本戦略……29
- 技術・研究開発戦略……31
- サステナビリティ戦略 ……33
- サステナビリティへの取り組み ……34
- マテリアリティの推進 ……35

SWCCグループのビジネスモデル ……39
事業セグメント別戦略と進捗
- エネルギー・インフラ事業セグメント……41
- 通信・コンポーネンツ事業セグメント……45

新たな事業創出に向けた取り組み
- Smart Stream事業 ……51
- デジタルイノベーション推進室の取り組み ……53
- （株）アクシオの取り組み ……55
- 知的財産情報部の取り組み……56

持続的経営の基盤
環境課題への対応……57
パートナーシップの強化 ……61
人的資本の強化 ……65
ガバナンスシステムの高度化 ……69
社外取締役座談会……81

財務・経営情報
2024年度決算のポイント ……86
財務・非財務ハイライト……87
過去11年間の主要財務データ……89
連結財務諸表 ……91
マネジメントチーム（役員紹介）……93
株式・投資家情報／会社情報 ……95

価値創造とイノベーションの歴史

SWCCグループは、1936年の創業以来、電線・ケーブルを中心とした製品を通じて、安心・安全な社会インフラの発展と持続可能な社会への貢献を目指してまいりました。そして今、「インフラだけじゃない。電線だけでもない。」のパーパスのもと、成長分野への挑戦や新たな価値創造を創出してまいります。
2030年、そしてその先を見据えて、変化を恐れず「ソリューション提案型メーカー」への進化を続け、新たな未来を切り拓きます。
「いま、あたらしいことを。いつか、あたりまえになることへ。」

躍動期 1936年～

1936年、東京電気株式会社（現 株式会社東芝）の電線部門から独立した当社。設立当時の社名「昭和電線電纜株式会社」は、元号・昭和の理念「万民の幸福と世界平和」に共感したこと、社名に電纜（ケーブルの意）を用いたのは、あらゆる種類の電線・ケーブルを製造・販売する大手に成長するとの決意を込めてつけられました。以後、戦後復興・高度経済成長の需要に応え、電力・通信インフラ網の整備を支えました。

- 1937年に裸銅線、1938年に電力ケーブル、通信ケーブルの製造販売開始。
- GE社のディップ・フォーミング・システムを日本で初めて導入、1969年に荒引線の製造を開始。高品質な無酸素銅の供給体制を構築。

高圧ケーブル出荷（1939年撮影）

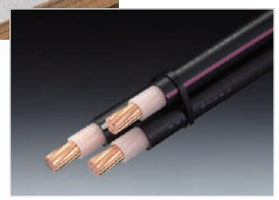
ディップ・フォーミング・システム

躍動期 1970年代～

高度経済成長や情報化の進展、グローバル化の波を受け、国内外に新工場を建設し生産体制を強化しました。主力の電線・ケーブル製品の安定供給と技術革新を通じ、社会インフラの発展や情報社会の基盤整備に大きく貢献しました。また、電線製造の技術を生かした新たな製品の開発・展開にも注力。時代のニーズに応える多様な製品群で、社会インフラの発展や情報化社会の基盤整備に貢献し、産業や人々の安全・安心な暮らしを支えました。

- 電線のゴム材料技術を生かして、1979年に電子複写機用ヒートローラの製造販売を開始。
- 電線から派生した防振ゴム製造で培ったゴムそのものの技術を生かして1985年から積層ゴムアイソレータの事業に参入。

ヒートローラ


汎用電線

充実期 2000年代～

IT化やエネルギー転換、地球環境問題への関心が高まるなか、高度化・多様化する社会インフラに対応する役割が求められました。社会情勢の変化および多様なニーズに対応するため、会社・組織体制の見直しとガバナンス体制の変更を図るとともに、独自のブランド戦略を展開することで社会の持続的発展と安全・安心な暮らしの実現に貢献しました。

- 2006年、電力ケーブル同士、または電力機器と電力ケーブルを接続する電力接続部品であるコンパクト型電力機器用製品群を「SICONEX®（サイコネックス）」ブランドとして統一。
- 2017年、高機能無酸素銅を「MiDIP®（ミディップ）」ブランドとして販売開始。

SICONEX®

MiDIP®

e-Ribbon®

SWCCグループ始動 2023年～

2023年、純粋持株会社から事業会社とする経営体制の再編、ならびに「SWCC株式会社」に商号変更しました。また、新たな体制とともに、パーパスを策定しました。策定したパーパス「いま、あたらしいことを。いつか、あたりまえになることへ。」のもと、SWCCグループは総合電線メーカーからソリューション提案型メーカーへの進化を加速させ、さらに高付加価値な製品・サービスの創出と持続可能な社会の発展に貢献してまいります。

- ケーブル細径化と配線時の作業性向上という２つのニーズを同時に満たす間欠接着型リボン「e-Ribbon®（イーリボン）」を開発、大規模なデータセンターの需要拡大に対応。
- 電力市場の３つの課題である「技能継承」「業務効率化」「安全」に対して、AVR®（Advanced Virtual Reality）など技能習得に有効な映像ソリューションを展開。

AVR®

三層絶縁電線

1936～

- **1936** 「昭和電線電纜株式会社」設立（東京電気株式会社：現 株式会社東芝より分離独立）
- **1937** 神奈川県川崎市にて操業開始（裸銅線製造販売開始）
- **1938** 電力ケーブル・通信ケーブル製造販売開始
- **1960** 相模原工場操業開始

1970s～

- **1969** ディップ・フォーミング・システムによる荒引線の製造開始
- **1972** 仙台工場操業開始
- **1979** 電子複写機用ヒートローラの製造販売開始
- **1995** 愛知工場操業開始

2000s～

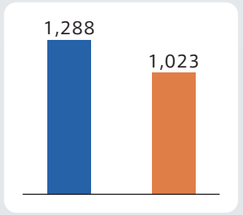
- **2006** 会社分割　持株会社体制へ移行　商号変更
「昭和電線電纜株式会社」から「昭和電線ホールディングス株式会社」へ
コンパクト型電力機器用製品群を「SICONEX®（サイコネックス）」ブランドとして統一
- **2017** 神奈川県川崎市に本社所在地変更
高機能無酸素銅を「MiDIP®（ミディップ）」ブランドとして販売開始
- **2019** 監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行
事業セグメント見直し・グループガバナンスを強化

2020s～

- **2021** 中期経営計画「Change & Growth 2026」、ビジョン「SWCC VISION 2030」の策定
- **2023** 純粋持株会社から事業会社体制とする経営体制の再編
商号変更「昭和電線ホールディングス株式会社」から「SWCC株式会社」へ
- **2025** 共同投資により株式会社TOTOKUの株式取得

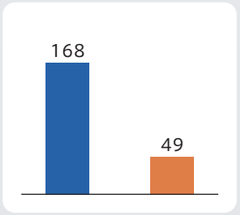
事業活動と価値創造の源泉

SWCCグループは、電線・ケーブルというフィールドで長年にわたり培った技術と叡智のもと、「エネルギー・インフラ事業」「通信・コンポーネンツ事業」を展開しています。時代の変化に対応し、未来に向けて挑戦を続け、新たな価値を創造していきます。



2024年度事業別売上高

- エネルギー・インフラ事業 1,288億円
- 通信・コンポーネンツ事業 1,023億円



2024年度事業別売上利益

- エネルギー・インフラ事業 168億円
- 通信・コンポーネンツ事業 49億円

エネルギー・インフラ事業

豊かな社会基盤をつくる SWCCグループの中核事業

SWCCグループの中核事業であり、創業以来、電線・ケーブルを中心に発電所から家庭までをつなぐ多彩な製品や、地震や火災などの災害から人命やインフラを守る製品を世の中に送り出し、社会インフラを支えています。電力ケーブル、電力機器製品、免震製品などを取り扱い、時代のニーズに適合させ、新しい時代を支える高品質な製品やソリューションを追求しています。

発電所・変電所やビルの変電設備で使用される当社独自の高電圧電力ケーブル用コネクタ「SICONEX®（サイコネックス）」は、軽量・コンパクトで、簡易ジョイント設計により、設置において省力化・作業効率化が図られ、施工時間の短縮を実現します。耐震性にも優れ、変電・民需市場において7割以上のシェアを誇ります。このSICONEX®を中核に、ケーブル・機器部品・工事・保守などの接続工事システムを提供するとともに、接続工事の効率化・省力化やサステナブルな人材育成へのプログラムを付加したSICOPLUS®（サイコプラス）戦略を推進し、電力市場でのソリューションビジネスを展開しています。

SICONEX®

通信・コンポーネンツ事業

高速大容量通信の時代を、多彩なデバイスソリューションと独自技術でリード

自動車、情報通信、産業用機器向けに、高品質な素材技術を基盤に、自動車部品、電子部品（半導体検査装置など）、通信ケーブル、ワイヤハーネス、複写機用部品、FA用ケーブルなど、多岐にわたる先進的な製品とソリューションを展開しています。

光学設計技術を応用して開発した間欠接着リボン「e-Ribbon®（イーリボン）」は、変形しやすい柔軟な特性を維持しつつ、大量の光ファイバを精密に連結することを可能にしました。主に、超細径高密度光ファイバケーブルに使用され、配線敷設工事の作業性の向上に貢献しています。

高純度で加工性に優れる高機能無酸素銅線「MiDIP®（ミディップ）」や、高強度で高導電率、耐屈曲性に優れた「銅銀合金線」は、自動車の駆動モータやシートヒータなどに使用されています。「MiDIP®」は、電気銅の投入から圧延までの全工程を雰囲気ガスおよび真空中で行い、クルーシブル（るつぼ）での鋳造から圧延、巻き取りまでの工程を徹底した酸化防止策のもとで行う日本唯一のディップ・フォーミング・システムにより製造されています。

e-Ribbon®

MiDIP®

新たな事業・ソリューションビジネスへの取り組み

社会にイノベーションを起こす成長市場を開拓

三相同軸超電導ケーブル

自動車、FA、医療、AI、ロボットなどの成長分野で、コア技術を生かした独創的な製品を展開します。EV化、自動運転化が急速に進行する自動車分野では、車載用ケーブルやワイヤレス給電コイルなどを開発。今後に向けては、次世代新幹線向けの製品拡充や、超電導製品の商用化に向けた取り組みを進めています。

また、IT分野において、グループ企業である（株）アクシオと連携し、RPA&AI事業、次世代インフラ事業、統合認証基盤事業など産業界をサポートする製品・サービスを提供しており、ゼロトラスト事業については、サブスクリプション型で高収益ビジネスモデルへの転換を図っています。

他の事業セグメントとも連携し、付加価値の高い製品とソリューションの開発により、SWCCグループの新たな可能性を追求していきます。

SWCCグループの価値創造ストーリー

SWCCグループは、2030年度（2031年３月期）までに目指すビジョン「SWCC VISION 2030」のなかで掲げる「ありたい姿」の実現に向けて、事業ポートフォリオの変革を進めます。

現在のビジネス

エネルギー・インフラ事業

- 電線
- 電力ケーブル
- 電力機器
- エンジニアリング
- 機器電材
- 制振・防振

通信・コンポーネンツ事業

- 通信ケーブル
- 光加工品
- 機器用電線
- ワイヤハーネス
- 精密デバイス
- 巻線
- 裸線
- 無酸素銅
- 銅合金線
- 自動車用電線

新たな事業・ソリューションビジネスへの取り組み

- ゼロトラストセキュリティ
- SWCC Smart Stream（スマートストリーム）
- 超電導ケーブルシステム

事業ポートフォリオの変革

［ 中期経営計画 ］

Change & Growth SWCC 2026

2022～2023年度　総合電線メーカー

・キャッシュ・カウ事業として成長を支える　・コア技術の進化

中計ローリング2024　高付加価値製品の提供

・高付加価値製品を拡充、川下戦略を推進
・新たなコア技術の獲得
・M&Aの活用

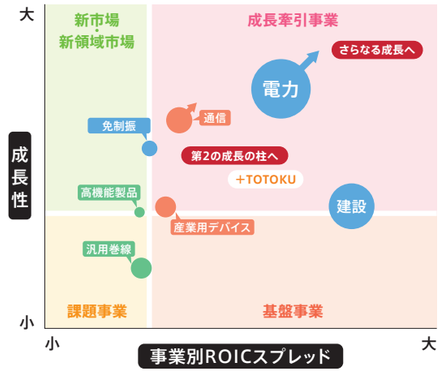
Change

ROIC経営の浸透による収益力アップ
DXによるバリューチェーン改革とビジネスモデル変換
コーポレートガバナンス体制の強化

Growth

社会解決型ビジネスの推進
成長事業へのポートフォリオシフト
拡大投資による成長フェーズへの移行

現時点の事業ポートフォリオ



▼

成長事業へのポートフォリオシフト

変革を支えるサステナビリティ経営［5つのマテリアリティ］

目指す姿

[SWCC VISION 2030]

Creating for the Future

ソリューション提案型の価値創造企業へ

省人化・省電力化に貢献するソリューションの提供

SWCCグループの価値

電線・ケーブルを中心とする多様な製品を通して培った優位性をもって、自らの企業価値を持続的に高める企業グループを目指します。より良い未来につながる新しい価値を創造するために、「お客さまの信頼を高める製品・サービス」「地球環境に優しい製品」「健全な事業活動を通じて信頼される企業価値」を追求し続けます。

社会にもたらしたい価値

SWCC独自の製品・サービスにより、持続可能な社会に貢献する価値を提供します。

- 安心で豊かな社会を目指して、激甚化する自然災害、深刻化する建物や設備の老朽化対策により、社会インフラを支えます。
- 全人類の目標である脱炭素化社会の実現につながる、再生可能エネルギー活用、EV化や安全・快適な自動運転を促進します。
- 本格的な少子高齢化社会の到来に伴う労働人口の不足、人々の豊かで健康な暮らしに欠かせない教育・医療分野が抱える課題解決も視野に入れて事業を展開します。

ストーリー の実現力

課題解決力

・お客さま課題、経営の重要課題の本質を見極める力
・課題解決への強い意識と組織力

＞戦略アップデート（P.21～38）

リーダーシップ

・新経営陣のリーダーシップ
・事業現場の統率力

＞トップメッセージ（P.11～16）

ガバナンス

・実効性ある取締役会
・財務規律、内部統制

＞ガバナンスシステムの高度化（P.69～85）

人材力

・SWCCパーパスへの共感
・高いエンゲージメント
・適正な人材確保と能力開発

＞人的資本の強化（P.65～68）